

A O方式入学者選抜 第Ⅱ項

出願資格

第Ⅱ項

建学の精神・教育理念を理解し、本学における学びや諸活動に自発的・積極的に取り組むとともに、本学の核となる意欲を持つ者で、次の各号（１～３）の条件をすべて満たしている女子。

１．次のいずれかの要件に該当する者。

- ① 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を卒業した者、および２０２４年３月卒業見込みの者。
- ② 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者、および２０２４年３月修了見込みの者。
- ③ 学校教育法施行規則第１５０条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、および２０２４年３月３１日までにこれに該当する見込みの者。
 - (1) 外国において学校教育における１２年の課程を修了した者、および２０２４年３月３１日までに修了見込みの者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの。
 - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者、および２０２４年３月３１日までに修了見込みの者。
 - (3) 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、および２０２４年３月３１日までに修了見込みの者。
 - (4) 文部科学大臣の指定した者。
 - (5) 文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）、および２０２４年３月３１日までに合格見込みの者で、２０２４年３月３１日までに１８歳に達するもの。
 - (6) 本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、２０２４年３月３１日までに１８歳に達するもの。

※出願資格１.-③-（６）による出願希望者は入学資格審査を受けなければなりません。出願に先立ち出願開始日の２カ月前までに本学アドミッションズオフィス（広報部入学課）へ問い合わせてください。

２．同志社女子大学を専願とし、合格した場合は、本学への入学を確約できる者。

・第一次審査（書類審査）に合格した場合は、第二次審査（個人面接）を必ず受験（出願）し、第二次審査に合格した場合は、必ず入学手続を行ってください。

３．学部・学科・専攻ごとに提示している次の要件のいずれかの項目について、自己アピールできる活動分野（原則として高等学校入学後のもの）を持ち、それを第三者に説明・説得できる能力を有している者。

〔学芸学部 音楽学科 演奏専攻〕

音楽について強い関心があり、積極的に勉学し、演奏能力を高めたいと考えている者。
（自己アピールできる活動分野）

- ①音楽に関する能力を活かした社会奉仕活動や文化的活動をし、入学後も継続・発展させる意志を持つ者。
- ②音楽についての強い関心や深い知識を具体的に提示できる者。
- ※①または②に該当する志願者ともに、第二次審査（個人面接）には志願する入試コース・楽器の演奏、歌唱（１０分以内）を含みます。

〔学芸学部 音楽学科 音楽文化専攻〕

音楽について強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

（自己アピールできる活動分野）

- ①音楽に関する能力を活かした社会奉仕活動や文化的活動をし、入学後も継続・発展させる意志を持つ者。
- ②音楽についての強い関心や深い知識を具体的に提示できる者。
- ※①または②に該当する志願者ともに、第二次審査（個人面接）は任意の楽器による演奏、歌唱またはその他、音楽に関するプレゼンテーション（１０分以内）を含みます。なお、使用する楽器（ピアノを除く）等は、各自が持参できるものに限りします。

〔学芸学部 メディア創造学科〕

メディアあるいは情報の分野における運用能力や、メディアを用いた表現について強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

（自己アピールできる活動分野）

- ①メディアあるいは情報の分野における運用能力や、メディアを用いた表現について高度な資格や水準（詳細は「資格一覧」参照）を有し評価を得ている者。
- ②芸術・文化活動の分野において、公のコンクール・展覧会で入賞・入選するなど、優れた実績を有する者。
- ※①または②に該当する志願者ともに、第二次審査（個人面接）は自己アピールできる活動分野に関するプレゼンテーション（約１０分間）を含みます。

〔学芸学部 国際教養学科〕

人文・社会系の諸分野を英語で学ぶことに強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

（自己アピールできる活動分野）

- ①英語運用能力・技術において高度な資格や水準を有し評価を得ている者。
- 実用英語技能検定２級以上、ＴＯＥＩＣ（Ｌ＆Ｒ）５１０点以上、ＴＯＥＦＬ ｉＢＴ ４８点以上、ＩＥＬＴＳ ４.５以上、ＧＴＥＣ ９６５点以上、ＴＥＡＰ ４技能２２６点（２技能（ＲＬ）：１０６点）以上、ＴＥＡＰ ＣＢＴ ４２０点以上、ケンブリッジ英語検定 Preliminary（PET）以上
- ※有効期間がある資格・スコアは、出願開始日時点で期間内のものに限りします。
- ※実用英語技能検定ＣＢＴやＳ－ＣＢＴも対象とします。
- ※ＴＯＥＩＣ－ＩＰおよびＴＯＥＦＬ－ＩＴＰは、対象外とします。
- ※ＧＴＥＣはオフィシャルスコアに限りします。

※英語外部資格試験の名称やスコアについては、変更となる場合があります。５月２９日（月）発表の入学選抜要項で必ず確認してください。

- ②諸外国と連携した社会奉仕活動（ＮＧＯ、赤十字、ユニセフ等、地域社会での活動や国際貢献活動等）に積極的に取り組んだ実績を持ち、入学後も継続・発展させる意志を持つ者。
- ※①または②に該当する志願者ともに、第二次審査（個人面接）で外国人教員を含む審査員による日本語および英語での面接を行います。

〔現代社会学部 社会システム学科〕

現代社会の諸問題について強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

(自己アピールできる活動分野)

- ①外国語・情報等の能力・技術において高度な資格や水準を有し評価を得ている者。
- ②海外留学やその他の体験等を通じ、国際的感覚や幅広い視野を有する者。
- ③継続したボランティア活動や社会奉仕活動で活躍している者。
- ④生徒会やクラブ活動等校内活動で積極的な活動をし、指導的な役割を担った者。
- ⑤文化・スポーツ等の分野で活躍した者。

〔現代社会学部 現代こども学科〕

こどもに関する社会的環境について強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

(自己アピールできる活動分野)

- ①外国語・情報等の能力・技術において高度な資格や水準を有し評価を得ている者。
- ②海外留学やその他の体験等を通じ、国際的感覚や幅広い視野を有する者。
- ③継続したボランティア活動や社会奉仕活動で活躍している者。
- ④生徒会やクラブ活動等校内活動で積極的な活動をし、指導的な役割を担った者。
- ⑤文化・スポーツ等の分野で活躍した者。

〔表象文化学部 英語英文学科〕

英語力を土台に英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションの学びを深めることに強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

(自己アピールできる活動分野)

- ①外国語能力において高度な資格や水準を有し評価を得ている者。
- ②海外留学やその他の体験等を通じ、国際的感覚や幅広い視野を有する者。
- ③継続したボランティア活動や社会奉仕活動で活躍している者。
- ④生徒会やクラブ活動等校内活動で積極的な活動をし、指導的な役割を担った者。
- ⑤文化・スポーツ等の分野で活躍した者。

〔表象文化学部 日本語日文学科〕

日本の文学・言語・文化、日本語教育について強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

(自己アピールできる活動分野)

- ①生徒会やクラブ活動等校内活動で積極的な活動をし、指導的な役割を担った者。
- ②文化・スポーツ等の分野で活躍した者。
- ③文化的活動を継続して行っている者。
- ④海外留学やその他の体験等を通じ、国際的感覚や幅広い視野を有する者。
- ⑤継続したボランティア活動や社会奉仕活動で活躍している者。

〔生活科学部 人間生活学科〕

生活をデザインすること、すなわち、より豊かな生活を思い描きその実現に向けて具体的な方針を立案、計画することについて強い関心があり、積極的に勉学したいと考えている者。

(自己アピールできる活動分野)

- ①くらしに関わる分野（被服、住居、家族、地域、福祉等）のプロジェクト活動に主体的に参加した者（学校における活動かどうかを問わない）。
- ②服飾やインテリア、その他の生活用品などに関する制作・デザイン活動を実践した者。
- ③生徒会やクラブ活動等の校内活動を積極的に実践し活躍した者。

④ボランティア活動や社会奉仕活動を継続的に実践し活躍した者。

【生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻】

広く食物学に興味を持ち、これからの食のあり方について科学的な視点で積極的に勉学したいと考えている者。

(自己アピールできる活動分野)

- ① 全国高等学校家庭クラブ連盟のホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動において、食に関わる分野の活動に主体的に参加した者。
- ② ①以外の、食に関わる分野のプロジェクト活動に主体的に参加した者（学校における活動かどうかを問わない）。
- ③ 食に関わる分野の公的なコンテストに参加した者（個人・団体を問わない）。
- ④ 生徒会やクラブ活動等の校内活動を積極的に実践し活躍した者。
- ⑤ ボランティア活動や社会奉仕活動を継続的に実践し活躍した者。